

2022年9月
大橋直紀

ロータリー月例報告書 vol.3

留学先：イタリア（フィレンツェ滞在中）

八月から九月にかけて多くの学校で実施されていた入学試験も終わり、イタリアでも秋の風を感じられる季節となりました。私が現在滞在しているフィレンツェは気候帯としては北海道と近いところもあり、九月半ばより上着を羽織っている外出者を見かけることが増えたように感じます。

さて、まずご報告となりますが、この度無事に入学試験に合格し、音楽院への入学が決まりました。私が入学先に選んだのは、レージョエミリアという街の音楽院です。北イタリアに位置するこの街は、決して大きな街ではありませんが、昨今ではレージョエミリア・アプローチとして特に幼児教育・芸術教育に重点をおいた教育法が高く評価されており、日本はじめ世界的に知られる街です。

私がこの学校を選んだ理由としましては、声楽の講師陣の顔ぶれが素晴らしかったことが挙げられます。今現在まだ担当教官は発表されておらず、依然として連絡を待っている段階ではありますが、在籍している三名の声楽講師陣はいずれもイタリア各地で現役で活躍されているプロの声楽家たちであり、この学校に入ることができれば学べることは多いと確信を持って入学を決めました。また、今回の入学に当たっては複数校の受験を伴ったため多くの街を訪問する機会があり、他の音楽院として、パヴァロッチの生まれ育ったモデナや、ミラノ近辺で非常に人気の高いピアチェンツァなども有力視していましたが、この学校の雰囲気が好きと感じたことも要因の一つです。結果的にこうして本命で考えていた音楽院の一つへの入学が無事に決まり、胸を撫で下ろしています。11月から学校が開始となる見通しのため、改めて今後に向けて準備に励みたいと考えています。

続いて、今月はフィレンツェの歌劇場であるマッジョ・ムジカーレにて行われた演奏会の写真を掲載いたします。

演奏された一時間半の演目の中で特に私が期待していたのは、ベートーヴェンの交響曲第二番です。この曲はベートーヴェンの持病であった難聴が悪化した時期に作曲されたものであり、日本での演奏機会こそ少ないものの魅力的なフレーズが多く、ハイリゲンシュタットにて多くの苦悩に苛まれたベートーヴェンが、新たな作曲技法に挑戦しようとした姿が垣間見える一曲として知られています。



歌劇場 マッジョ・ムジカーレ・フィオレンティーナ

また今回の演奏会ではズービン・メータが指揮しており、ウィーンフィルやメトロポリタン、三大テノールのコンサートをはじめ、世界的な活躍をされている現代の巨匠が指揮をする姿を間近で見ることができた、ということも大きな喜びでした。高齢ということもあり、壇上まで決して足取りが軽いと言える様子ではありませんでしたが、曲が始まり雰囲気が変わるその様には、やはり巨匠と呼ばれる所以と貫禄を感じました。こうして毎月さまざまな演奏を耳にすることができる喜びを噛み締める日々です。



巨匠ズービン・メータと
フィオレンティーノ・マッジョ・ムジカーレ管弦楽団

末筆となりますが、今後とも皆さまからの変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。